



第32回 スマイル インタビュー

年間のスケジュールはどんなものですか？

春から初夏にコウゾ畑の草取り芽かきをしたうえで晩秋から冬にコウゾを刈り取り、蒸して皮をはぎ、黒皮を取り、白皮にします。紙すき体験や出前体験授業にも取り組みます。

これまでの活動を振り返って特に印象に残ったことは？

手すき和紙がユネスコ文化遺産に登録され、体験来訪者やボランティア参加者が増えたことです。

大竹の和紙のすばらしさをどのように伝えていくべきと考えますか？

将来を担う子どもたちの学校授業に取り入れてほしいです。

コウゾの栽培などで苦労していることはありますか？

イノシシ被害や天候異変などに左右され、原料確保に苦慮しています。



大竹手すき和紙作業風景

やってよかったと思うのはどんな時ですか？

当会の手すき和紙を卒論や課題発表で取り上げ、その連絡や答礼訪問を受けた時です。

後継者育成についての考えを。

一部の人の献身的努力やボランティアに支えられてきましたが、技術の伝承と品質保持のうえからも、専従者の確保が望まれます。



あとがき

コロナ対策費が加わって一般会計の予算が超大型200億円を突破した大竹市の令和2年度が終わりしました。大竹市は、国からのコロナ対策交付金を使って、すべきことは問題なく出来たと思います。好評だった大竹方式のクーポン券も一定の経済効果を発揮したものと考えています。

しかし、コロナ禍から見えてきた日本という国には、問題点がたくさん盛りです。国はなぜ、不明確な説明を繰り返すのか、確かな根拠を示した上での決断が、なぜ下せないのでしょうか。

体温が37.5℃あると病院には行けないと言われていました。PCR検査が簡単にはできない環境下、日本製の検査機器が海外で活躍と報道され、おまけにそれは日本では未承認だと。さらには、コロナ患者を受け入れた病院が経営危機になったり、日本の医療政策の問題点があぶりだされた感があります。公立病院再編構想も変えざるを得ないでしょう。国産ワフチンはなかなか出来ない

いし、輸入品もいつになったら届くのか、まるで逃げ水のようにです。この市議会だよりが配られる頃には、高齢者へのワフチン接種が佳境を迎えているはずですが、医師と看護師では対応出来ないとも言われます。前例を踏襲するだけでは、新しい世界には対応出来ません。今こそ、トップの英断を期待したいと思います。

広報広聴特別委員

- 委員長 北地 範久  
副委員長 小田上 尚典  
藤川 和弘  
原田 孝徳  
小中 真樹雄  
中川 智之  
日域 究

市議会だよりは市ホームページにも掲載しています。

